

■理工学研究科の教育課程編成・実施の方針（Curriculum Policy；C P）

理工学研究科は、理工学1専攻で3つのコースからなる。D Pを踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施する。すなわち、博士前期課程では、「専攻共通選択科目」「各コース選択科目」と「各コース必修科目」から構成する。博士後期課程では、「各コース選択科目」と「各コース必修科目」から構成する。

<博士前期課程>

修士（理工学）

[専攻共通選択科目]

（C P 1）コースを問わず履修することができる、「表現技術特論」「エンジニアリングデザイン」「超高層大気物理学」「資源科学基礎論」「画像センシング特論」「発展インターンシップ実習」「学際分野特殊研究」など技術者・研究者の基礎的素養とされる共通選択科目を設置する。このなかの「学際分野特殊研究」は成蹊大学大学院の他研究科と共同で開講される科目である。これらは6単位を必修とし、広範かつ多角的な視野の構築を目的とする。

[必修科目]

（C P 2）コース別に専門的な特別実験と特別演習の科目群を必修科目として設置する。特別実験の科目群では、複数教員による実験指導を通じて理学から工学にわたる基礎的で広範な実験技術や実験手法の修得をめざす。また、特別演習の科目群では、自身の修士論文研究課題に与する科学理論について調査し、その調査内容の整理と関連実験における実験結果を分析・評価する手法、ならびに発表討論の手法を身につける。

[選択科目]

（C P 3）各コースの専門性に応じた科目群を設置し、理学・工学の横断的な専門知識とその活用力を十分に修得する。

修士（工学）

[専攻共通選択科目]

（C P 1）コースを問わず履修することができる、「表現技術特論」「エンジニアリングデザイン」「超高層大気物理学」「資源科学基礎論」「画像センシング特論」「発展インターンシップ実習」「学際分野特殊研究」など技術者・研究者の基礎的素養とされる共通選択科目を設置する。このなかの「学際分野特殊研究」は成蹊大学大学院の他研究科と共同で開講される科目である。これらは6単位を必修とし、広範かつ多角的な視野の構築を目的とする。

[必修科目]

（C P 2）コース別に専門的な特別実験と特別演習の科目群を必修科目として設置する。特別実験の科目群では、複数教員による実験指導を通じて工学の主要で基礎的な実験技術や実験手法の修得をめざし、特別演習の科目群では、自身の修士論文研究課題に即した理論と関連実験について、調査内容の整理や実験結果を分析・評価する手法と発表討論の手法を身につける。

[選択科目]

(C P 3) 各コースの専門性に応じた科目群を設置し、工学に関する種々の専門知識とその活用力を十分に修得する。

<博士後期課程>

博士（理工学）

[必修科目]

(C P 4) コース別に専門的な特別実験と特別演習の科目群を必修科目として設置する。特別演習の科目群では、自身の博士論文研究課題に即した理学・工学の理論と関連実験について、調査内容の整理や実験結果を分析・評価する手法と、討論を通じて新たな問題を設定するなどの高度な研究手法を身につける。

[選択科目]

(C P 5) 各コースの専門性に応じた科目群を配置し、理学・工学に広く関わる専門的で高度な知識を十分に修得する。

博士（工学）

[必修科目]

(C P 4) コース別に専門的な特別実験と特別演習の科目群を必修科目として設置する。特別演習の科目群では、自身の博士論文研究課題に与する工学に関する理論と関連実験について調査し、それら調査内容の整理や実験結果を分析・評価する手法を身につける。また、科学的知見を踏まえた討論を通じて新たな問題を設定するなどの高度な研究手法を身につける。

[選択科目]

(C P 5) 各コースの専門性に応じた科目群を配置し、工学に関わる専門的で高度な知識を十分に修得する。

●(付表) 理工学研究科の博士前期課程におけるカリキュラムマップ(各コース共通)

	DP1	DP2	DP3
専攻共通科目 CP1	◎	◎	○
必修科目 CP2	◎	◎	◎
選択科目 CP3	○	○	◎

●(付表) 理工学研究科の博士後期課程におけるカリキュラムマップ(各コース共通)

	DP4	DP5	DP6
必修科目 CP4	◎	○	◎
選択科目 CP5	◎	◎	◎